

# 高齢者施設における腸管出血性大腸菌 感染症(O157)の感染事例について

令和元年7月14日  
京都府健康福祉部  
健康対策課(075)414-4735  
京都府山城広域振興局  
山城北保健所(0774)21-2191

昨日(7/13)、山城北保健所管内の医療機関から、腸管出血性大腸菌感染症(O157)の患者(1名)の発生届がありましたので、お知らせします。

## 1 患者の概要

山城北保健所管内の高齢者施設入居者 80歳代 男性  
※患者は、現在治療中であり、快方に向かっている

## 2 感染源及び感染ルート

患者本人及びその家族、施設に感染症状況調査を実施したが、感染源及び感染ルートは特定できなかった。

また、当該患者以外には、体調不良を訴える方はおられず、現時点においては感染が拡大している状況は確認されていない。さらに、施設の食事による食中毒の可能性は低いと判断される。

## 3 山城北保健所の対応

施設に対し、職員及び施設内入居者への注意喚起の実施を指導

### 《参考》腸管出血性大腸菌感染症

大腸菌は、もともと牛などの家畜や人の腸に存在し、殆どのは無害ですが、一部の腸菌は食中毒などの原因となるものがあり、それらを総称して「病原性大腸菌」呼びます。

病原性大腸菌のうち、O157,O26,O111など約40種類は、人の腸管内で出血性下痢の原因となるペロ毒素を作るため、「腸管出血性大腸菌」と呼ばれています。

主な特徴としては、①わずか100個足らずの菌で感染する「強い感染性」、②ペロ毒素を作り、場合によっては「溶血性尿毒症症候群(HUS)」を引き起こす「強い毒性」、③菌が体内に入ってから3日～8日で発症する「長い潜伏期間」  
症状としては、激しい腹痛、下痢(はじめは水様便、後に血便)、まれに溶血性尿毒症症候群を続発

#### 《二次感染予防》

- ①食事の前、トイレの後、患者の世話をした後などには、正しく手洗いを行いましょう。
- ②患者の衣類や食器などは消毒しましょう。
- ③入浴は注意しましょう。(患者はシャワー又はかけ湯、患者使用後は幼児は入浴させず、丁寧な消毒を実施)



【腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】

	平成29年	平成30年	平成31年 (令和元年)※
京都府	36	49	41
(京都市除く)	18	17	22
全国	3,904	3,851	1,154

※ 27週(7/1～7/7)までの速報値

